



福祉 地域福祉計画の 達成状況 及び課題は

「私の視点」
平成31年3月に計画策定された「地域福祉計画」が見直しの時期を迎えた。現計画の達成状況や課題を踏まえ、第2期の計画に反映させていくことが重要ではないか。

答弁（町長） 86%達成できたが、コロナ禍等で未達成等のものもある

問 「たまむらささえあい計画」第1期の進捗状況及び成果と課題はどのようになっているか。

答（町長） 「目標達成」、「概ね達成」、「未達成」、「未着手・中止」の4段階で評価したところ、地域福祉計画については、57施策のうち達成状況が49施策で86%、自殺対策計画については、42施策のうち39施策で93%と順調に事業が実施された。

成年後見制度利用促進基本計画については、11施策のうち達成状況が5施策で45%と他の計画と比較して低い達成度となったが、これはコロナ禍によって中止となった事業が多く、周知・啓発を十分に図れなかった影響であると考えている。

問 コロナ禍以外に未達成であった要因は何があるか。

答（健康福祉課長） 公共交通など他の計画との関連もあり、達成できなかった。

問 第2期策定に向け、計画に反映していく項目はあるのか。

答（健康福祉課長） 「重層的支援体制整備事業による地域共生社会の実現に向けた取組」や「再犯防止に関する項目」、「孤独孤立に関する項目」のほか、自殺対策計画では、引き続き子供・若者に対する支援に加え、女性に対する自殺対策の推進についても重点項目に加えて進めていくことを検討している。

要配慮者等も避難できる避難所を

問 災害発生時の避難所の開設場所及び運営方法はどのようになっているか。

答（町長） 避難場所として、最初は自主避難所、次に指定緊急避難場所、そして指定避難所を開設することとなる。また、避難場所等の運営については、まずは町職員が中心となり、開設・運営をしていく。

問 地域における自主防災組織と行政との連携状況及び組織強化に向けた取組は。

答（町長） 地区の防災訓練時に職員による出前講座を実施し、これらの機会を通じて自主防災組織との連携を図っている。また、訓練に必要な消耗品等の購入費用を町が補助するなど各地区の組織強化に努めていきたいと考えている。



それぞれの計画の達成状況は、実施内容まで評価・検証していくことが必要だ



土地 大規模な空き地 や農地等の 今後の状況は

「私の視点」
福島の上福島の旧両水跡地や上福島の約7ヘクタールの農地については、手つかずのままである。これらの土地開発が進めば、町にとって大変有意義なものになるのではないか。

答弁（町長） 市街化区域編入による開発や民間開発に期待

問 福島の上福島の旧両水跡地や上福島の約7ヘクタールの農地について、今後、町はどのような考えでいるのか。

答（町長） 旧両水跡地の西側の農地を一体的に市街化区域に編入し、進出を希望する企業と話を進めている。編入は、都市計画等の手続きの関係で令和7年度を予定している。上福島の約7ヘクタールの土地は、北関東自動車道前橋南ICに隣接しているが、市街化区域への編入基準に該当せず、県の開発審査会提案基準の一つである「特定流通業務施設」による民間開発に期待し、町としても可能な範囲で協力していきたいと考えている。

工業団地進出企業の公表を

問 高崎玉村スマートIC北地区工業団地の進出企業が決定したとのことだが、公表はできないか。

答（町長） 本工業団地については、令和5年12月中に造成工事が完了し、令和6年2月頃に分譲予定企業と正式契約を締結し、土地の引渡しが行われる予定である。その後、公表の同意が得られた企業から順次公表される予定である。

通学路の雑草処理対策を早急に

問 町内の通学路において、車道と歩道の縁石脇の雑草が伸びている。ごみの不法投棄、交通事故、犯罪等の抑止のためにも早急に除草すべき

である。通行に不便を感じるほど伸びる前に、雑草の処理はできないか。

答（町長） 通学路の除草は、町道であれば町で、国県道であれば伊勢崎土木事務所が実施している。また、交通量の少ない地域内の町道については、地域の清掃活動の際に、地区で除草を実施しており、実施が困難な場合は、町で実施する場合もある。

今年雑草の成長が早く、県道歩道の除草に関し町に苦情が多く寄せられており、苦情のたびに伊勢崎土木事務所へ町から除草を依頼している。特に危険な箇所については、早急に対応を依頼している。

また、毎年実施している通学路合同安全点検で、雑草等で通学路の安全確保に支障がある箇所は関係者と協議し対応していきたいと考えている。



開発による雇用拡大と経済活性化で地域振興を図れ

こんな質問もしています
・ライドシェアの導入について

